

飼料用米サイレージの生産と給与実証

農業技術振興センター企画情報部

【普及活動のねらい・対象】

県では、水田の有効活用や飼料自給率の向上施策の一環として、飼料用米の作付けと家畜への給与を推進しています。現在、飼料用米は養鶏や養豚部門での利用が拡大しつつありますが、更なる拡大を図るには、酪農や肉牛部門での利用拡大が必要です。

そこで、飼料用米を利用されていない竜王町のK牧場（水田酪肉複合経営）を対象に、飼料用米サイレージの調製作業と乳牛への給与実証を行い、利用の定着化を図りました。

【普及活動の内容】

（１）飼料用米サイレージの給与実証

乳牛は夏場に食欲が減退し、乳量が低下します。そこで、嗜好性の優れた同サイレージを夏期の栄養補給飼料として利用することを提案し、その効果を調査しました。

7月5日～8月2日にかけて、搾乳牛に1日0.8kgを給与しました。結果、嗜好性は良好で、高温期でも乳量に目立った増減は見られず、農家の評価も良好でした。



乳牛への給与

（２）調製作業の省力化と品質向上実証

調製作業の実用化には、作業の省力化が必要です。そこで、シーラー機や脱気弁を活用した省力作業と、乳酸菌の添加、脱気作業の有無による品質への影響について調査しました。

表1の組み合わせで比較試験を行ったところ、発酵品質は何れも良好で、シーラー機を用いた調製よりも、フレコンバックと脱気弁を組み合わせた調製方法が実用的であることがわかりました。また乳酸菌の添加は、状況に応じて省略できることがわかりました。

表1 サイレージ調製方法と品質の比較 サイレージの発酵品質を表す評点で80点以上が良品

区分	フレコンバック(270L)		ポリエチレン袋(30L)シーラー密閉			
	乳酸菌添加		乳酸菌添加		無添加	
	脱気弁	脱気・テープ	脱気無し	脱気・テープ	脱気無し	脱気・テープ
カビの状況	少量	少量	無	少量	無	少量
ガスの発生	無	無	有 無	無	有 無	無
Vスコア(点)	94	99	100	99	100	97

【普及活動の成果】

同牧場では来年度4ha分の飼料用米の作付けが予定され、肉用牛への給与についても導入が検討されています。今後、畜産技術振興センター、農産普及課と連携を図りながら、同牧場の条件に見合った生産・給与体系を模索し、飼料用米普及のモデル牧場となるよう取組を支援する予定です。